

開創八周年記念法会

★日時：令和2年12月2日（水）

11時～12時（10時半から受付）

当日の祈願受付は11時までとさせていただきます。

★場所：四天王寺 津市栄町1-892

059-228-6797（駐車場有り）

★参加費：ご志納 お一人1,000円

特典：願い事をご祈祷し、お赤飯（限定150食）

と記念品をお渡しします。



開創7周年記念法会 観音寺にて

寺社ちょっといい話

■「伊勢の津七福神の霊場になって」

和田正道（安楽寺住職）

私が住職を務めさせて頂いている安楽寺は、榊原の地蔵寺から布袋尊をお預かりし、伊勢の津七福神の霊場になってもうすぐ3年が経とうとしています。



以前の安楽寺は、お檀家様がお参りにみえたり、地元の小学生が山門の絵を描きにくらいで、他の地域の方がお参りに来られるということは、ほぼ無いお寺でした。

伊勢の津七福神の霊場になった今では、全国からお参りにお越し頂くようになりました。そして、「こんな山奥にこんなお寺があるなんて、ビックリしました。」というお声をたくさん頂

きます。

そこで、1100年の歴史がある安楽寺を簡単に紹介させていただきます。安楽寺は延喜19年（919年）に、醍醐天皇の勅願の寺として建立されました。当寺は薬師山安楽寺と称して、寺門は光輝（こうき）燦然（さんぜん）としていたそうです。しかし、時は移って永正5年（1508年）に兵火にかかり堂宇すべてを失いました。その後、寛永元年（1624年）、桑名の揚柳寺六世万機休罷和尚がお越しになられ、荒廃した安楽寺を禅寺として再興されました。しかしながら享保13年（1728年）に落雷により、本尊と過去帳以外を焼失。その後、寛政7年（1795年）に山門や本堂等の再建をしましたが、天保5年（1834年）祝融（しゅくゆう）の災にあい、山門以外のすべてを焼失いたしました。この時に本尊の頭部のみ、持ち出すことが出来ました。そして、現在の本堂は明治元年（1868年）から再建に着手し、11年の歳月をかけ落成されたものです。

本尊は薬師如来座像で高さ約140cm、一般の寺院ではかなり大きい仏様になります。また、境内には烏瑟沙摩明王（うすさま明王）が祀られており、下半身の仏様として信仰され、下半身の病氣平癒や子宝祈願、安産祈願に多くの方がお越しになられます。ほかにも約230年前に建てられた県内でも他にないと言われるほどの大きな山門がございます。

安楽寺は高齢化の進むとても田舎で電車もなくバスも2時間に1本の不便なところがございますが、その分、自然豊かで静かなお寺です。是非、御参詣ください。



安楽寺山門

■「伊勢系花菖蒲に魅せられて」

鹿島寿美（八の会）

伊勢系花菖蒲は、江戸系と肥後系に並ぶ花菖蒲の3大系統のひとつであるが、現在各地の花菖蒲園で栽培されている江戸系や肥後系に比べて、伊勢系花菖蒲を目にする機会は少ないのが現状である。

伊勢系花菖蒲のルーツは、江戸時代後期の松阪（松阪御城番屋敷）あたりに発しており、その後明治から昭和にかけて多数の品種が育成された。

<門外不出>であった為今残っている古花品種は60種類程度と思われる。これに対し戦後から現在までに育成された伊勢系花菖蒲は、（伊勢系新花）として区分され、銘花と呼ばれる数多くの品種が現在栽培されている。

伊勢系古花は、松阪花菖蒲とも呼ばれ、江戸時代後期に松阪城下に住む紀州藩士の吉井定五郎（1776～1859）によって作られたのが始まりと伝えられている

1952年（昭和27年）伊勢花菖蒲の名称で三重県指定天然記念物に指定された。

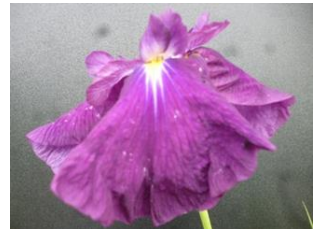
伊勢系花菖蒲の特徴は、花は三英咲きで、3枚の大きな外花弁が丸弁となって互いに重なり垂れ下がる。葉は剣葉で立ち、花茎と葉はほぼ同じ高さになってほど良い調和が取れている。草勢は旺盛でなく、江戸系肥後系に比べて弱い。

この花の育成には手間暇がかかりますが、花の咲いた時の感動は最高です。

（日本花菖蒲協会 45号参照）



明石



紅孔雀

新型コロナ禍の募金について 伊勢の津七福神霊場会 会長 坂倉賢芳

令和二年を迎えて、染筆やご朱印を求める信者様・巡拝の皆様が途絶えることがなく、順調に滑り出したかのようにでしたが、思わぬ出来事 “新型コロナウイルスによる感染拡大” という事態が日本のみならず世界を席卷し、平素の様相が逆転いたしました。この姿を見せることのないウイルスは瞬く間に全国に拡大し三重県もその標的となり、観光、飲食業、学校、企業、病院等に大きな打撃を与えました。また、長期間の活動自粛は各種業界に多大な経済的損失を与えており、回復に向けた諸活動に取り組んでおられます。

我々霊場会としてできることは二点あります。その一つは、祈ることであります。すなわち、新型コロナウイルスという悪疫の退散と、それによる犠牲者の追悼であります。あと一つは、医療現場の最前線で自身の命の危険を顧みず患者の治療に当る医療従事者の皆様と職を失ったりして生活に困窮をきたした方々への募金活動であります。

霊場会は募金箱を置き、参拝者・巡拝者の尊い浄財を募りたいと思います。12月2日までの短い期間ではありますが、皆様、ご支援ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。



募金受付

ご賛同の方は、最寄りの7寺社様の募金箱へ

伊勢の津七福神 友の会ご案内

伊勢の津七福神が津市に開創して8年が経とうとしています。
巡拝の方も5,500名(10月末)を越えました。

今200名の友の会会員の皆様のご協力のもと、この先も歩みを進めて行きたいと思っています。

是非ともこの活動に御賛同くださり、巡拝・感謝の心を育て、町おこしの夢を見てください。

会員の方には年3回、友の会便りが届きます。特典もございます。(別紙)

会費 : 1,000円/年間

金融機関 : 郵便局

郵便振替口座 : 00820-8-123136

口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電話 : 059-225-8558

URL : <http://isenotsu7fukujin>



大きなポスター！
観光協会や7寺社
に掲載！
もうご覧になりましたか

俳句日和

- ・風に乗り宝船くる津の港
- ・坐禅組む若者たちに冬日影

編集後記 : ご意見、原稿お寄せ下さい。

12月2日紅葉美しい四天王寺へ

池上 kanon@nifty.com

発行 : 伊勢の津七福神友の会事務局

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内